

畜産茨城

第466号

平成29年5月22日



目次

平成28年度茨城県自給飼料コンクール表彰式	1	第16回茨城県堆肥コンクール表彰式	
平成29年度畜産施策方針と重点施策	2	及び土づくりセミナー開催される	9
新任あいさつ	4	平成29年3月市況	10
種卵の長期保存は、少羽数の種鶏		肉用子牛生産者補給金・肉用牛繁殖経営支援事業発動状況	10
から多数の種卵（ヒナ）を生産できる	6	平成29年4月市況	11
地方競馬 場外発売日程	7	新マルキン発動状況	11
平成29年度 定期人事異動	8	農地中間管理機構からのお知らせ	12

発行所／茨城県水戸市梅香1丁目2番56号
公益社団法人 茨城県畜産協会
電話 029 (231) 7501
URL <http://ibaraki.lin.gr.jp>
発行人／加倉井 豊 邦

平成28年度茨城県自給飼料コンクール表彰式



平成29年3月17日、県畜産センターにて、茨城県農林水産部畜産課主催の平成28年度茨城県自給飼料コンクール表彰式が開催されました。

本コンクールは、自給飼料の効率的な生産及び利用技術並びに放牧等の環境に調和した持続的な生産・経営方式等、県内の優秀な事例を選定、表彰することで、飼料基盤の重要性を啓発し、自給飼料生産の推進に資することで、自給飼料基盤に立脚した家畜生産の安定的な発展を図ることを目的として開催されました。

今回は、大子町で周年放牧に取り組んでいる株式会社益子農林 益子光洋 氏が最優秀賞を受賞され、優秀賞には 常総市 佐藤宏弥 氏、有限会社ファームオアシス 篠崎 毅 氏、稲敷市 上野 裕 氏が受賞されました。おめでとうございます。

このあと、最優秀賞を受賞した株式会社益子農林 益子光洋 氏については、一般社団法人日本草地畜産種子協会が主催する全国自給飼料コンクールへ出品することとなります。

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています

平成29年度畜産施策方針と重点施策

茨城県農林水産部畜産課長 根本 和彦

現状と課題

この度の定期人事異動により、畜産課長を拝命いたしました。本県畜産の振興に尽力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、本県の平成27年農業産出額は、4,549億円で平成20年から8年連続で全国第2位の地位を堅持しております。このうち、畜産の産出額については、1,290億円で本県の農業産出額の約28%を占める基幹産業となっており、県内だけでなく、大消費地である首都圏に畜産物を安定的に供給する基地として重要な役割を担っております。

一方、畜産を取り巻く情勢は、高齢化による担い手の減少、飼料価格の高止まり等による生産コストの増大、人口減少に伴う国内市場の縮小に加え、EUをはじめとした諸外国等との経済連携協定など、急速なグローバル化の進展が見込まれることから、厳しさが増大するものと危惧されます。

また、高病原性鳥インフルエンザやPEDが発生していることなどから、徹底した家畜伝染病の防疫対策や農場における飼養衛生管理の重要性が高まっております。

さらに、霞ヶ浦の富栄養化や都市化の進展による混住化が進むなか、一層の環境負荷軽減など、周囲の環境と調和した畜産業の確立が求められており、今後も畜産農家が安心して経営できる対策が求められております。

対応方針

このような中、県では、平成28年度に策定した「茨城農業改革大綱」において、「人と産地が輝く、信頼の『いばらきブランド』」を基本方向に、ブランド化や6次産業化、輸出に取り組む革新的な産地づくりと経営感覚に優れた経営体の育成などに取り組んで行くこととしております。

特に、グローバル化の進展による影響が懸念される畜産については、重点的取組である「畜産・水田農業の国際競争力の強化」や「いばらき畜産物ブランドアップ推進プラン」等に基づき、畜産経営の規模拡大等による収益性の向上や和牛の生産拡大、酪農経営の体質強化などの生産基盤の強化を進めてまいります。また、新たに開発したデュロック種系統豚を活用した新ブランド豚肉の確立や常陸牛の輸出拡大など、銘柄畜産物のブランド力強化、さらにHACCP等に対応した食肉センターの整備に向けた検討を進め、国際競争力の強化を図ってまいります。

さらに、消費者が求める安全・安心で、高品質な畜産物を供給するため、アジア地域で発生している口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等に対して必要な防疫対策を講じるほか、輸入飼料に依存しない畜産経営基盤づくりのため、耕畜連携による飼料用米等の利活用やとうもろこしなどの自給飼料増産の取組を支援するとともに、環境負荷軽減に向けた家畜排せつ物の適正管理と農外利用も含めた有効利用の促進等を図ってまいります。

重点施策

(1) 生産基盤の強化

国のクラスター事業を活用し、畜産農家と地域関係者が一体となって行う規模拡大等による収益性の向上の取組を支援するほか、畜産関係団体と県で作成したグランドデザインに基づき常陸牛生産者の一貫経営化や繁殖雌牛の導入支援、米平公共育成牧場の整備、大子町キャトルブリーディングステーションの整備支援、さらに、畜産センターへの受精卵供給センターの設置など、和牛生産体制の強化を図ってまいります。

また、系統豚を活用した新たなブランド豚肉の確立に向けた検討を行うほか、家畜改良による生産性の向上や耕畜連携による飼料生産基盤の強化を図ってまいります。

(2) 畜産物流通の促進及び畜産経営の体質強化

「いばらき畜産物ブランドアップ推進プラン」に基づき、本県の銘柄畜産物である「常陸牛」、「ローズポーク」、「奥久慈しゃも」等のブランド力の強化を図るため、輸出を含めた更なる販路拡大や

付加価値の向上を図るとともに、重点的なPR等を行い、銘柄畜産物を牽引役とした本県産畜産物の販売促進とイメージアップを進めてまいります。また、HACCP等の高度な衛生基準に対応した食肉センターの整備に向けた具体的な検討を進め、本県畜産物の競争力を強化してまいります。

(3) 家畜衛生対策の充実と安全な畜産物の生産

家畜伝染性疾病の発生やまん延防止を図るため、飼養衛生管理基準の遵守を徹底するほか、高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫などの家畜伝染病の万一の発生に備えた危機管理体制を充実させてまいります。また、オーエスキー病の清浄化対策や動物用医薬品の適正使用を推進するとともに、死亡牛全頭の牛海綿状脳症検査の継続、農場HACCP等の飼養衛生管理手法の導入支援等により、安全・安心な畜産物の生産を支援します。

(4) 畜産環境対策の充実

霞ヶ浦の富栄養化や都市化による混住化、環境に対する県民の関心の高まり等を受け、環境保全型農業が一層求められることから、より高品質な堆肥の生産や流通を促進するための機械等の整備を支援するとともに、堆肥を複合肥料の原料として供給するなど、新たな流通ルートの開拓等の広域流通を支援するほか、燃料化など堆肥以外の新たな家畜排せつ物の利用を推進します。

(5) 試験研究の推進と指導体制の充実

第2期中期運営計画に基づき、①ブランド力強化を支える新品種・新技術の開発、②環境にやさしい資源循環型畜産及び地球温暖化対策等を支える技術の開発、③受精卵移植等の先端技術の開発と利活用及び国産飼料を活用した低コスト技術の開発、の3つを柱として、試験研究を推進するとともに、農業総合センターや大学、国の研究機関等や行政機関及び関係団体等と連携し、本県畜産物のブランド化や環境に優しい畜産の推進、生産の低コスト化・効率化を支援してまいります。

農林水産部畜産課

畜産の国際競争力強化対策

予算額 1,828,864千円 (H29当初505,217千円 H28補正1,323,647千円)

収益性向上に向けた畜産経営体の施設整備や和牛繁殖雌牛・乳用雌牛の導入を支援するとともに、豚肉のブランド化や食肉流通合理化を推進し、本県畜産の国際競争力強化を図ります。

◎ 畜産クラスター

畜産競争力強化対策事業費 1,225,597千円 (H28補正)
規模拡大等による畜産経営体の収益性向上に必要な施設整備を支援

<実施主体> 畜産経営体等
<対象事業> 畜舎や家畜排せつ物処理施設、自給飼料関連施設等
<補助率> 国1/2、事業主体1/2

◎ 肉用牛関連

和牛受精卵供給事業【新規】 8,500千円
畜産センターに受精卵供給センターを設置し和牛受精卵供給体制を強化
・優良採卵牛の導入(年5頭×4年)による場内採卵と受精卵供給強化
・農家所有牛からの野外採卵による受精卵活用強化
和牛生産基盤強化対策事業費【拡充】 12,500千円
肥育農家の一貫経営化や繁殖農家の規模拡大のための繁殖雌牛導入支援
(1) 肥育農家への繁殖雌牛の導入支援(5,000千円)
<実施主体> 常陸牛振興協会
<対象事業> 一貫経営化に取り組む常陸牛指定生産者への支援
<補助率> 定額(100千円/頭)
(2) 繁殖農家への繁殖雌牛の導入支援(7,500千円)

<実施主体> (公社)茨城県畜産協会
<対象事業> 規模拡大する繁殖農家への支援
<補助率> 定額(50千円/頭)(ALICの導入支援対策への県上乘せ)
米平公共育成牧場の整備 60,000千円 (H28補正)
放牧地を再整備し、新たに繁殖肥育一貫経営に取組む肉用牛農家から妊娠牛を受け入れ、円滑な一貫経営への移行を促進
<実施主体> 県
<対象事業> 放牧地の整備(雑草刈払い、種子まき、牧柵整備等)
<補助率> 国1/2、県1/2又は国定額
大子町キャトルブリーディングステーション(CBS)の整備支援 37,800千円 (H28補正)
繁殖農家から分娩後の雌牛を預かり、人工授精

から妊娠確認まで集中管理する施設を整備し、繁殖農家における雌牛の増頭を支援
＜実施主体＞太子町繁殖雌牛管理組合（仮称）

＜対象事業＞牛舎、堆肥舎、管理棟・飼料調製保管施設
＜補助率＞国1/2、県1/5、太子町1/4、事業主体1/20

◎ 乳用牛関連

家畜生産性向上対策事業費（乳用雌牛導入支援分）【継続】
11,850千円

家族経営を中心とした酪農家への乳用雌牛の導入支援

（1）乳用雌牛の導入支援（10,250千円）

＜実施主体＞茨城県酪農業協同組合連合会

＜対象事業＞乳用雌牛流通のための体制構築、乳用雌牛導入への補助

①地域内流通マッチング、②県内

子牛導入、③妊娠牛導入

＜補助率＞①1/2、②定額（50千円/頭）、

③定額（100千円/頭）

（2）乳用雌牛の導入支援（1,600千円）

＜実施主体＞茨城県酪農業協同組合連合会

＜対象事業＞廃業する酪農家の乳用牛を地域内継承するための支援

＜補助率＞定額（16千円/頭）（ALICの導入支援対策への県上乗せ）

◎ 養豚関連

ブランド豚肉生産拡大事業費【拡充】 469,971千円

養豚研究所が開発した新たな系統豚を活用したブランド豚肉の生産を推進するため、ブランド豚肉生産条件の検討と系統豚供給体制の整備

（1）新ブランド豚肉確立推進事業（9,371千円）

・ブランド豚肉の生産基準づくり、事前PRの実施

（2）系統豚供給体制整備事業（460,600千円）

・系統豚を安定的に供給するための養豚研究所の施設整備

◎ 食肉流通合理化

食肉流通合理化促進事業費【新規】 1,000千円

茨城県食肉流通合理化計画に基づき、HACCPに対応した食肉センターの整備に向け、検討委員会等を設置し、基本的な考え方や整備計画を検討

◎ 輸出対策

常陸牛ブランド支援対策（輸出）【継続】 1,646千円

常陸牛の輸出拡大を図るため、「常陸牛輸出版売促進員」設置に対する支援

＜事業主体＞常陸牛振興協会

＜対象事業＞常陸牛輸出版売促進員の設置

＜補助率＞県1/3、事業主体2/3

新任あいさつ

茨城県畜産センター長 永田 裕

この度、茨城県畜産センター長を拝命いたしました永田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年度は、畜産の国際競争力の強化を重点的な取り組みのひとつに掲げる新たな「茨城農業改革大綱」が策定されて2年目。畜産センターといたしましては、①ブランド力強化を支える新品種・新技術の開発 ②環境にやさしい資源循環型畜産及び地球温暖化対策等を支える技術の開発 ③受精卵移植等の先端技術の開発と利活用及び国産飼料を活用した低コスト技術の開発の3つを試験研究の柱として、茨城農業改革大綱と連動した取り組みを積極的に展開してまいります。

まず、ブランド力の強化につきましては、昨年、肉用牛研究所において肉質「5等級」の割合が94

%を占め全国平均の約30%を大きく上回る高能力種雄牛「茂光洋」を完成させました。この種雄牛の精液を本県銘柄牛「常陸牛」生産の切り札として肉用牛農家の皆様に広く活用していただけるよう積極的にPR等を展開し、「常陸牛」の更なるブランド力向上に努めてまいります。また、養豚研究所におきまして同じく昨年、脂肪交雑に優れた豚肉生産を可能とするデュロック種系統豚「ローズD-1」が誕生いたしました。本年度は、この雄豚を活用した新しいブランド豚肉を確立するため、養豚農家の皆様とともにブランド豚肉の生産基準づくりや養豚研究所における系統豚供給体制の整備等に取り組んでまいります。

次に、環境にやさしい資源循環型畜産等を支える技術開発につきましては、国の研究部門や

大学等と積極的に連携しながら、生産性を維持・向上させながら排せつ物中の窒素量削減や悪臭低減ができる低タンパク質飼料給与技術の開発や、畜産汚水中の窒素を除去するアナモックス菌やリンを回収できるMAP技術の実用化に向け研究を推進してまいります。

さらに、先端技術の開発と利活用につきましては、この4月から新たに畜産センター内に「受精卵供給センター」を設置し、受精卵移植技術を活用した県内の和牛子牛増頭に取組んでまいります。県内外の優秀な和牛雌牛導入による場内採卵の拡充や、農家所有牛からの野外採卵の

強化を進めるなど、多くの方に和牛受精卵をご利用いただけるよう頑張ってまいります。

その他、県民の皆様には、牛のエサやりや模擬搾乳などの酪農体験、バターやアイスクリーム、ソーセージ作りなどの畜産物加工体験等、随時開催してまいりますので、ぜひお子様と一緒にご利用いただければと思います。

今後とも生産者をはじめ、県民の皆様のご意見に広く耳を傾け、時代の変化に対応する畜産センターとなれるよう職員一丸となって取組んでまいりますので、引き続き、関係各位のご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

新任あいさつ

茨城県畜産センター肉用牛研究所長 木村 安之

この4月に肉用牛研究所長として赴任いたしました。よろしくお願いいたします。

肉用牛を取り巻く情勢は、高齢化による担い手の減少、繁殖雌牛の減少、肥育素牛価格や飼料価格の高止まりなど厳しさを増しています。このため、ブランド化による付加価値向上や生産コストの削減などによる経営のより一層の体質強化が求められています。

このような中、畜産センターは、「農業改革大綱(2016-2020)」に連動して、「①ブランド力強化を支える新品種・新技術の開発、②環境にやさしい資源循環型畜産及び地球温暖化対策等を支える技術の開発、③受精卵移植等の先端技術の開発と利活用及び国産飼料を活用した低コスト技術の開発を研究の柱とした「畜産センター中期運営計画(H28-32)」に基づいて試験研究を展開しています。

肉用牛研究所は、常陸牛生産の基盤となる種雄牛の造成に最も力を注いでおり、昨年度は「北国関7」を超える肉質の「茂光洋」を選抜することができ、生産者や畜産関係者から大いに注目されています。これからも、ひき続き肉質や増体に優れる種雄牛の造成に努めます。また、平成28年度からは、新たな牛肉の評価法の確立を目指して、エイジング(熟成)や加熱による化学変化が牛肉のおいしさにどのように影響を及ぼすかを研究中です。これらの研究成果が、本県の牛肉のブランドアップの強化や肉用牛生産者の経営の体質強化に繋がることを願っています。

今後とも、現場のニーズに対応した試験研究を実施し、皆様にとって身近な肉用牛研究所であるよう努めますので、一層のご支援、ご指導をお願いいたします。

新任あいさつ

茨城県畜産協会事務局長 松本 茂

この度、公益社団法人茨城県畜産協会事務局長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

さて、畜産経営を巡る情勢は、担い手の減少や子牛価格の高騰、配合飼料価格の高止まりに加えT P Pにおける米国離脱表明後のグローバル化に向けた不透明な動きなど、大変厳しい状況にあり、それらへの対策が求められています。

このような中、当協会といたしましては、畜

産農家への経営支援対策、衛生対策および家畜・畜産物価格補償対策を実施するとともに、県内外への消費拡大に向けた県産畜産物の消費者へのP Rや輸出の拡大に取り組み、畜産の振興に寄与してまいります。

今後とも、皆様との連携を図りながら、畜産の振興に向け畜産協会職員一丸となり取り組んでまいりますので、皆様方の一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、就任のあいさつとさせていただきます。

種卵の長期保存は、少羽数の種鶏から 多数の種卵（ヒナ）を生産できる

茨城県畜産センター生産技術研究室

はじめに

地鶏生産は、産地間競争が激しく、より一層の生産コスト削減が求められています。種鶏ヒナの供給羽数は、鶏舎の収容羽数等により、ふ化作業1回ごとに必要なヒナの羽数が増減するため、必要とするヒナの最大羽数に合わせて種鶏の羽数を確保することになります。このため、生産コストの削減のため単純に飼養羽数を減ら

すことは困難な状況です。

そこで、通常14日間の保存期間をさらに14日延長し、28日間とすることで、これまでよりふ化作業1回あたり少ない羽数の種鶏から必要な数の種卵（ヒナ）を安定的に生産できるように長期保存方法を試験しました。

試験方法

地鶏（奥久慈しゃも）の種卵を用い、保存期間（28日間）、湿度86%以上とし、①保存温度、②保存時の種卵の向き、③ふ化作業前の予備加

温の有無等の条件を組み合わせ、ふ化率等を調査しました。

試験結果

保存条件としては①10℃、②鋭端部上向き、③予備加温有りの条件で良好なふ化率となることが分かりました。そのため、④追加消毒の回数（1回、2回、無）の条件を追加し、さらに調査を行いました（表1）。

表1 種卵の保存条件

試験区	消毒の有無	予備加温の有無
1	1週間ごと	有り
2	1週間ごと	無し
3	2週間ごと	有り
4	2週間ごと	無し
5	無し	有り
6	無し	無し

※共通の条件：保存温度10℃、湿度86%以上、種卵の鋭端部上向き

その結果、保存期間の経過に伴い、どの区においても22日以降は対入卵ふ化率が低くなる傾向がみられました（図3）。しかし、試験区1、

4では全期間で、試験区2、3、6では15～21日間において対入卵ふ化率が目標としていた66%以上となり、種卵の長期保存のための良好な条件を確立することができました。



図1 種卵保存の様子



図2 ふ化の様子

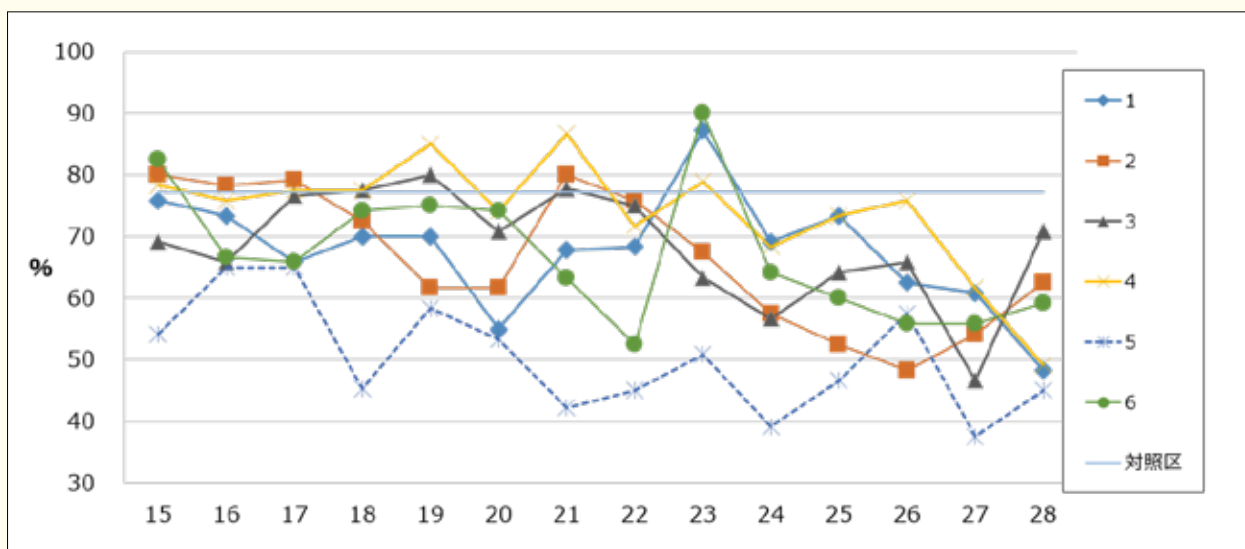


図3 種卵の保存期間の経過にともなう対入卵ふ化率の推移

終わりに

今回の試験より、種卵を長期保存するためには、保存温度10℃、湿度86%以上、種卵の鋭端部上向き、2週間間隔での追加消毒を行うことで、28日間の長期保存が可能であることが分かりました。そして、種卵の長期保存のためには、清潔な種卵（逆性石鹼液での浸漬消毒の実施）を用い、温度や湿度の変化を少なく保つ

ことも重要なことです。

今回の技術により、1羽の種鶏からより多くの種卵を確保できることが分かりました。つまり「少羽数」の種鶏から「多数」の種卵生産が可能となりました。さらに、限られた羽数の特種鶏の生産やヒナの発生日の調整への活用が期待できると思います。

地方競馬場外発売日程

「オフトひたちなか」TEL：029-265-5800

※発売日程は、変更になることがあります。

2017年6月

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜 日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
オフトひたちなか	浦 和				大 井							川 崎								船 橋							大 井			
○東京ダービー																														

○東京ダービー

○関東オークス

○京成盃グランドマイラーズ

○優駿スプリント

○帝王賞

2017年7月

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜 日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
オフトひたちなか			川 崎						大 井						浦 和			船橋		船 橋		大 井				川崎					

○スパーキングレディーカップ

○ジャパングレートダービー

○習志野きらっとスプリント

○サンタアニタトロフィー

第16回茨城県堆肥コンクール表彰式及び 土づくりセミナー開催される

(公社) 茨城県畜産協会

家畜排せつ物の適正な管理とその有効利用に努め、良質な堆肥の生産と利用を実践している畜産農家を顕彰するため、(公社) 茨城県畜産協会、茨城県堆肥利用促進協議会主催による第16回茨城県堆肥コンクールを開催し、上位入賞者の栄誉を称え、平成29年3月3日、茨城県農業総合センターにおいて表彰式を行いました。

このコンクールは、平成13年度の第1回から、毎年行い今回で16回を迎えました。今年度は、中小家畜部門を対象とし、養豚8点、養鶏12点の計20点の出品があり、現地調査、官能審査、成分評価の3項目を設け、それぞれの項目ごとの審査基準に従い審査し、更に現地調査で確認した堆肥化施設の管理状況や環境への配慮などを加味して総合的に評価して入賞5点が選定されました。

山本敏弘審査委員長(県畜産センター長)の審査報告では、官能審査として色相・形状の評価について、副資材のもみ殻やおがくずが残り、臭気についても強めのものも、一部で見られましたが、肥料3要素の含量も多く水分も適度であり、全体的に良質な堆肥と評価されました。成分評価では、水分含量の平均は26.8%と良好な値でしたが、豚では60%に近い堆肥もありました。肥料成分は、現物中の平均値が窒素2.2%、リン酸4.9%、カリ4.0%でした。土づくりの指標ともされる炭素窒素比(CN比)の平均は11.1となり、土づくりと同時に肥料的効果も見込める堆肥が多かったと評価を受けました。養鶏の最優秀賞は(有)石川養鶏で、堆肥は密閉縦型コンポストを使い堆肥舎で2ヶ月堆積して製造しています。肥料成分は窒素2.0%、リン酸5.8%、カリ5.5%とバランスがとれており、成分評価、官能評価とも良好で取扱い易い堆肥と評価されました。養豚の最優秀賞は石上ファームで、堆肥はブローア装置のある堆肥舎を使って製造し、醗酵促進剤を用いて品質の向上に努めており、官能審査でも高い評価を受

けました。

入賞者は下記のとおりとなります。

入 賞 者

最優秀賞

- ・有限会社 石川養鶏(小美玉市:養鶏)
- ・有限会社 石上ファーム(鉾田市:養豚)

優秀賞

- ・有限会社 ホウトク農場(小美玉市:養鶏)

特別賞

- ・茨城県知事賞 有限会社 石川養鶏
- ・茨城県農林水産部長賞

有限会社 石上ファーム



表彰式のあとの土づくりセミナーでは、今回最優秀賞を受賞した(有)石川養鶏による「良質堆肥の生産について」の事例紹介と茨城県農業総合センター農業研究所の中村憲治環境・土壌研究室長から「水稻栽培での鶏ふん堆肥の使い方」の試験研究情報の話題提供がありました。続いて、一般財団法人畜産環境整備機構 畜産環境技術研究所 研究統括官 道宗直昭氏から「堆肥分析結果から見た良質堆肥の生産について」の講演がありました。

平成29年3月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
8	一般子豚	33	28,512	19,116	25,344	50
	ベビー豚	273	29,160	13,068	25,280	35
22	一般子豚	28	32,184	29,916	31,212	50
	ベビー豚	224	29,916	20,844	25,769	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	55	960,120	510,840	702,118	277	2,531
		♂	0					
		去計	53	1,188,000	406,080	950,930	313	3,036
	F1	♀	108	1,188,000	406,080	824,220	295	2,794
		経産	5	843,480	89,640	316,872	—	—
		去計	12	406,080	366,120	388,170	287	1,351
		去計	22	486,000	390,960	451,685	284	1,592
			34	486,000	366,120	429,268	285	1,507

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂
10	入場頭数	9	0	0	4	0	15	5	2
	成立頭数	9			3		9	5	2
	最高(円)	61,560			89,640		108,000	72,360	73,440
	最低(円)	49,680			76,680		54,000	57,240	64,800
	平均(円)	56,280			84,600		74,040	64,368	69,120

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
16	和牛	♀	27	942,840	631,800	791,240	272	2,903
		♂	0					
		去計	51	1,088,640	664,200	902,985	296	3,049
			78	1,088,640	631,800	864,304	286	3,001

食肉地方卸売市場

茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日 牛枝肉：毎週月曜日、木曜日									
項目	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)						屠畜頭数	
	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛
豚	14,567.0	78.4	533	509	491	459	398	479	27,567	735.0
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)		
和牛	A 152	179	480.9	2,790	2,544	2,151	1,575	—	2,495	
	B 21			2,407	2,288	1,994	978	—		
	C 6			—	—	1,534	773	864		
乳牛	A —	142	318.5	—	—	—	—	—	531	
	B 9			—	—	—	639	555		
	C 133			—	—	—	598	484		
交雑牛	A 11	122	492.5	—	1,893	1,593	—	—	1,527	
	B 98			2,069	1,800	1,624	1,243	—		
	C 13			—	—	1,370	1,048	450		

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日	畜種	年齢	性別	頭数	1, 5, 9, 15, 19, 25, 29		
					最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	去計	♀	3	32,400	14,040	24,840
			♂	149	130,680	1,080	93,163
			去計	3	88,560	59,400	76,320
			去計	155	130,680	1,080	91,514
F1	スモール	去計	♀	77	282,960	85,320	213,924
			♂	91	400,680	106,920	311,918
			去計	0			
			去計	168	400,680	85,320	267,004
黒毛和種	子牛	去計	♀	0			
			♂	0			
			去計	15	484,920	463,320	472,536
			去計	15	484,920	463,320	472,536
	スモール	去計	♀	0			
			♂	1	626,400	626,400	626,400
			去計	0			
			去計	1	626,400	626,400	626,400
子牛	去計	去計	♀	2	599,400	356,400	477,900
			♂	2	648,000	594,000	621,000
			去計	0			
			去計	4	648,000	356,400	549,450
3歳以上	去計	去計	♀	7	319,680	160,920	227,263
			去計	0			
			去計	7	319,680	160,920	227,263

肉用子牛生産者補給金・肉用牛繁殖経営支援事業発動状況

平成28年度第4四半期(平成29年1～3月)

○肉用子牛生産者補給金制度

(単位：円／頭)

○肉用牛繁殖経営支援事業

(単位：円／頭)

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	337,000	307,000	220,000	133,000	205,000
合理化目標価格	280,000	257,000	149,000	90,000	147,000
平均売買価格	851,400	777,600	360,200	213,800	419,300
補給金単価	—	—	—	—	—

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種
保証基準価格	337,000	307,000	220,000
平均売買価格	851,400	777,600	360,200
発動基準	450,000	410,000	290,000
支援交付金単価	—	—	—

平成29年4月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区 分	頭 数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
5	一般子豚	10	32,292	32,292	32,292	50
	ベビー豚	207	31,860	20,088	28,929	35
19	一般子豚	10	21,708	21,708	21,708	50
	ベビー豚	274	24,840	10,152	21,840	35

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区 分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♀
	入場頭数 成立頭数 最高(円) 最低(円) 平均(円)	開催なし							

食肉地方卸売市場

株茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日							牛枝肉：毎週月曜日、木曜日		
項目 畜種	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)							屠畜頭数
	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛
豚	13,364.0	79.0	534	513	491	458	404	479	25,390	880.5
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)		
和牛	A 238	272	491.1	2,851	2,565	2,214	1,500	—	2,556	
	B 33			2,519	2,373	1,883	1,007	—		
	C 1			—	—	—	758	—		
乳牛	A —	134	310.6	—	—	—	—	—	509	
	B 7			—	—	—	587	592		
	C 127			—	—	—	584	443		
交雑牛	A 13	149	508.4	1,999	1,887	1,666	756	—	1,542	
	B 120			1,891	1,825	1,650	1,206	—		
	C 16			—	1,733	1,462	1,032	—		

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	40	891,000	490,320	720,117	281	2,567
		♂	0					
		去計	75	1,244,160	594,000	932,342	320	2,914
	F1	♀	115	1,244,160	490,320	858,525	306	2,803
		経産	9	552,960	156,600	319,680		
		去計	37	538,920	326,160	435,736	311	1,399

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
	和牛	♀ ♂ 去計		開催なし				

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日			5, 9, 15, 19, 25, 29				
畜種	年齢	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	
乳牛	スモール	♀	3	367,200	8,640	134,280	
		♂	142	183,600	3,240	123,531	
		去計	0				
	子牛	♀	145	367,200	3,240	123,753	
		♂	0				
		去計	14	194,400	64,800	115,869	
F1	スモール	♀	4	233,280	218,160	226,260	
		♂	18	233,280	64,800	140,400	
		去計	61	309,960	129,600	247,001	
	子牛	♀	90	403,920	111,240	337,428	
		♂	0				
		去計	151	403,920	111,240	300,898	
	2歳	♀	5	321,840	226,800	268,272	
		♂	0				
		去計	16	486,000	259,200	460,485	
	黒毛和種	子牛	♀	21	486,000	226,800	414,720
			♂	0			
			去計	2	345,600	324,000	334,800
3歳以上		♀	2	345,600	324,000	334,800	
		♂	0				
		去計	2	670,680	617,760	644,220	
黒毛和種	子牛	♀	2	708,480	694,440	701,460	
		♂	2	708,480	617,760	672,840	
		去計	4	708,480	617,760	672,840	
	3歳以上	♀	7	312,120	160,920	237,909	
		♂	0				
		去計	7	312,120	160,920	237,909	

新マルキン発動状況

期	支払方式	肉専用種	交雑種	乳用種
平成29年3月	概 算 払 単 価	—	39,000	70,700
平成29年2月	確 定 単 価	—	30,700	75,200
	概 算 払 単 価	—	26,900	71,600
平成29年1月	確 定 単 価	—	—	72,100
	概 算 払 単 価	—	—	68,300

(注)

平成26年4月期の補填金交付から、四半期の最終月以外については、補填金を概算払いし、各四半期の最終月に確定単価で精算払いをすることになりました。(配合飼料価格安定制度の見直しによる生産費用算出の関係によるもの。)

また、平成26年4月から消費税抜きで算定されています。

○茨城県において補填金交付額に見合う財源を確保できない場合、補填金単価を減額することがあります。

◎算定基礎の詳しい情報は、(独)農畜産業振興機構HP (<http://www.alic.go.jp>) をご覧ください。

農家のみなさんへ 貸したい農地ありませんか？



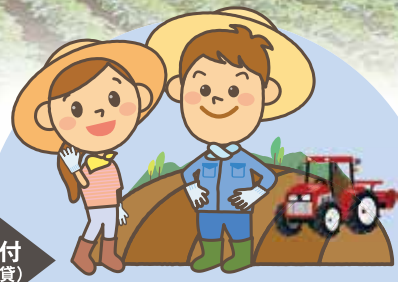
農地を貸したい

●規模縮小 ●経営転換 ●農地相続
でお困りの方。

貸付

**農地集積
バンク**

農地中間管理機構



農地を借りたい

●規模拡大 ●新規参入
をお考えの方。

貸付
(転貸)

農地の集積・集約化を推進しています。

農地中間管理機構または、最寄りの市町村（農政担当）まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

農地中間管理機構 ☎ 029-239-7131
(公益社団法人茨城県農林振興公社) 水戸市上国井町3118-1

■ ホームページ <http://ibanourin.or.jp/nourin/kanri/>

茨城県農林振興公社

検索




いばらきの高品質豚肉
ローズポーク
茨城県銘柄豚振興会

事務局
〒311-3155 東茨城郡茨城町下土師1950
全国農業協同組合連合会 茨城県本部内
TEL / 029-292-8004
FAX / 029-292-7743



茨城県銘柄鶏
奥久慈しゃも
奥久慈しゃも生産組合

〒319-3523 茨城県久慈郡大子町袋田3723
TEL / 0295-72-4250
FAX / 0295-72-2944



茨城県が誇る、霜降り牛肉
常陸牛
ひたちなか

公益社団法人 茨城県畜産協会

TEL / 029 (231) 7501 FAX / 029 (222) 2032

○当協会に対する意見・要望

Eメール info@ibaraki.lin.gr.jp

○本紙への掲載「催事・各種情報」

Eメール chikusan@ibachiku.com

○ホームページ

<http://ibaraki.lin.gr.jp>